

体育授業が児童の社会性に及ぼす影響

松本 大 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 南島 永衣子

キーワード：社会性、体育授業、積極性

1. 緒言

現代の子どもを取り巻く問題はたくさんある。教育機関では、いじめや不登校・学級崩壊、家庭では児童虐待、社会では少年犯罪など、場所や環境によっても様々である。その中のほとんどの問題は、他者とのコミュニケーションが上手く取れないことが主たる原因である(眞え里、2006)。特に、現在の学校が抱える問題の中で、暴力行為やいじめ、不登校の問題、自己中心的な考え方の子どもの増加なども社会性の欠如が原因である(岡山県教育委員会、2007)。

そのような中、今回私が重要視したのは、「社会性の育成」についてである。学校教育において、特に体育授業は仲間との関わりが多く、様々な種目を通して、喜びや達成感を共有する事に適していると考えられている。

そこで、本研究では体育授業が児童の社会性に及ぼす影響について検討することを目的とした。

2. 研究方法

本研究では、小学校5・6年生を対象とし、心理測定尺度集IV(堀・櫻井、2007)と体育授業についての調査(高田・岡澤、2000)の2種類のアンケートにより、児童の体育授業に取り組む姿勢(以下、積極性)と社会的スキルの関係性を分析する事とした。その際、統計処理としてはSPSS13.0J for Windowsを用いて双方の相関関係を見た。

3. 結果

1) 積極性と社会的スキルの関係

全てのクラス・学年において、有意な相関関係を示した(表1)。

表1 社会的スキルと積極性の相関関係

	積極性-社会的スキル
5年1組	$r=0.562^*$ (n=21)
5年2組	$r=0.338$ (n=21)
6年1組	$r=0.646^{**}$ (n=22)
6年2組	$r=0.473^*$ (n=21)

2) 社会的スキル領域と問題行動領域別の相関関係

(1) 積極性と社会的スキル領域の関係

全クラス・学年に正の相関関係が見られた。

(2) 積極性と問題行動領域の関係

5年1組($r=0.103$)、5年2組($r=0.155$)、6年1組($r=0.404^*$)においては正の相関関係が見られ、6年2組については負の相関関係($r=-0.254$)が見られた。

(3) 社会的スキル領域と問題行動領域

5年1組($r=-0.238$)と6年2組($r=-0.375$)において負の相関関係、5年2組($r=0.453^*$)と6年1組($r=0.392$)において正の相関関係が見られた。

4. まとめ

体育授業に積極的に参加することによって、児童の社会的スキルは向上することが示唆された。

なお今後の課題として、社会的スキルの問題行動領域について、授業をあらゆる角度からとらえ、細かく分析する事があげられる。

引用・参考文献

眞え里耕太(2006) 小学校体育における社会性の育成に関する考察. 人間科学研究 19, p. 85.

高橋健夫(2003) 体育授業を観察評価する. 明和出版:東京, p. 158.